Ⅳ．下の短文は、浜松と楽器工業の地理的・歴史的関係である。　　　　　　　　　　　 〔10〕

（ ➀ ～ ⑩ ）に入る地名・人名・用語等を記入しなさい。

１．現在の（ ➀ ）県浜松市は徳川家康が（ ② ）の河岸段丘上に城を築き城下町として人口が増えた。

２．江戸初期の頃から庶民の着物地は、それまでの薄い（ ③ ）から保温性のある綿布に変わり始めた。

３．浜松では　2　の低地にある島畑（（ ④ ）堤防上）が綿花栽培の好適地で綿畑が増えた。

４．浜松では綿花を原料に綿織物業が盛んになる。これには機織（はたおり）機の発展があった。

５．機織機の材料は　2　の上流から筏（いかだ）で運ばれてきた木材で、浜松周辺はその集積場であった。

６．浜松周辺は（ ⑤ ）からの空っ風の通り道で木材の乾燥に適する。そのため用材化しやすい所であった。

７．当時の機織り機は足を交互に踏み込む組立機械で、後のピアノ組立への素地が浜松にはあった。

８．明治初期に近代教育が始まり、学校の音楽には（ ⑥ ）・ピアノが配置された。

９．浜松で小学校の　6　の修理に（ ⑦ ）寅楠が携わる。　7　は時計・医療器具などの修理工であった。

10．明治後期、浜松で　7　が日本楽器を創業。当時の技術者には河合小市（後に河合楽器創業）がいた。

11．昭和初期、日本楽器が陸軍浜松飛行場の飛行機用に木製（ ⑧ ）を造った。

（　8　はグランドピアノの曲線作業を活かして製作）

12．日本楽器が金属 8 を造る。これが後の（ ⑨ ）楽器の製作につながった。

　　（戦後はヤマハ・YAMAHAのブランド名を使用）

13．昭和後期、「ヤマハ」と会社名を変更し、スポーツ・半導体など経営も幅広く（ ⑩ ）化して現在に至る。

（ヤマハは1969年にピアノ生産台数が世界１位になり今や世界最大の総合楽器メーカ）